

論文審査の結果の要旨

報告番号	博（経）甲第19号	氏名	Peter Symon NGANGA
学位審査委員	主査	村田省三	
	副査	薛軍	印
	副査	丸山幸宏	
<p>題名： Market Attractiveness, Industries Environment Competitiveness, Entry Mode Choice Analysis –Methods Applied, AHP, SWOT, Malmquist Index, Stepwise Regression, and Proxy Framework Methods (SSA region)–</p> <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>これまで、発展途上の国々において潜在的に魅力を持つ市場を審査、選択する研究は数多くなされているにもかかわらず、サブサハラアフリカ（以下 SSA と略）地域の国々における実証研究は、焦点を絞った定量的な研究に限定される。またマクロ経済および政治的要因に基づく旧来の市場分析が行われ、急激な変化に起因する発展途上市場の活力および将来の可能性、さらに特定の産業部門に影響する国の特性および市場の受容力については明らかにできていない。すなわち、SSA 地域における市場の潜在的魅力度については、確固たる見識が得られていないのが現状である。本論文では、同地域の産業の競争優位性および技術力の水準の状況に焦点を当て、その市場の潜在的魅力度に関する有用な識見を与えるものである。そのため次の4点を明らかにしている。まず、(1) SSA 地域の潜在的魅力度を階層分析法（Analytic Hierarchy Process；以下 AHP と略）および SWOT 分析を用いて明らかにしている。次に、(2) 経済成長にとって必須である3つの産業（すなわち農業、電気・ガス・水道業、金融業）における生産性の状況を、包絡分析法（Data Envelopment Analysis；以下 DEA と略）に基づくマalmquist インデックス（Malmquist Index；以下 MI と略）を用いて明らかにし、さらに全要素生産性の進展に最も寄与する入力変数を回帰分析により導出している。さらに、(3) MI および投入産出法を用いて3つの産業を分析し、同産業における技術水準および競争優位性の現状を明らかにしている。最後に、(4) SSA の商圈における実行可能な参入方法を、Dunning の折衷理論を用いて導いている。</p> <p>本論文は以下に示す章構成である。</p>			

第1章	Introduction(SSA Region)
第2章	Market Attractiveness (SSA)
第3章	TFP Growth: (Agriculture, Energy, and Financial Sectors)
第4章	Industry Environment Competitiveness
第5章	Environmental Influences Entry mode Decision
第6章	Research Summary
	Appendix A, B

第1章では、本研究の背景、問題意識及び研究目的について述べ、続いて、本研究で用いる種々の手法について整理し、論文構成について述べている。第2章では、SWOT分析およびAHPを用いて、SSA諸国における市場の潜在的魅力度を明らかにしている。同諸国の一般的（マクロ）な環境における潜在的成長性および資源としての機会に対する重要度に基づき、優先度の順位付けを行い、その結果、潜在的魅力度の高い上位20か国を明らかにした。第3章では、第2章で得られた上位20か国について、DEAに基づくマルムクイスト・インデックス(MI)を用いて、2001年～2011年における3つの産業（農業、電気・ガス・水道業、金融業）の全要素生産性(total factor productivity growth)を導いた。さらに、回帰分析法を用いて全要素生産性に対する入力変数の寄与率を調べている。第4章ではポーターのファイブフォースに代替する手法としてMIおよび投入産出法を用いて、上記産業の競争優位性の評価を行っている。二つの期間（2003年～2007年および2007年～2011年）の間のパネルデータ分析を行い、独立した市場および通商圏での市場における産業の競争優位性および技術レベルを特定している。第5章では、第4章で得られた産業構造および競争優位の分析により導出された結果に基づき、Dunningの折衷理論を用いてSSAの通商圏において実行可能な参入モードの選択方法について明らかにしている。第6章ではまとめと本研究の貢献および今後の課題を整理している。

本論文の貢献は以下の通りである。

本研究は、SSA地域における産業の現在の成果を測定し実証することにより、学術研究領域およびビジネス環境の考察の双方において貢献するものである。

AHP手法における比較測定法および絶対比較法のハイブリッド手法を導入することにより、グローバル環境下での多目的意思決定に際しての主観性を最小化しており、同意思決定に対する従来のAHPモデルを進展させている。また、SSA地域における産業の長期に渡る堅固な発展を維持するために、不足する要因を改善するための基盤として有効な施策を抽出している。さらに伝統的なマクロ環境分析モデル(PEST: Politics, Economic,

Social/Cultural, Technology を用いた分析モデル) に第 5 番目の変数としてインフラ (Infrastructure) を付加した拡張モデル、PESTI を導入している。ポーターの競争優位のためのファイブフォース分析に、時系列分析および距離関数による分析手法を付加し、さらにマクロ的環境分析とミクロ的環境分析を組み合わせることにより、産業環境の競争優位性の従来の評価方法を拡張し、更新している。最後に、SSA の通商圏におけるマーケットおよび各種機構に関連する問題についての概念研究を通して、SSA 地域の諸国におけるマーケット参入モードに関する知見を与えている。以上のように、従来の分析手法を改善することによって、これまで明らかにできなかった、SSA 地域における市場の潜在的魅力度の評価方法を確立し、さらにその地域への参入方法について確固たる知見を与えるものである。

本論文を構成する各章には、それぞれ、学会発表 (国際学会での発表 2 件を含む) および審査制論文 (審査制国際誌 2 編を含む) が対応しており、第三者からの評価も受けていることなどから、博士論文としての評価には十分に対応できるものと考えられる。

以上から、本論文は、本研究科の博士学位論文の審査基準 (独創性・新規性、貢献度、論証可能性、完成度) を満たすものと判断され、本学位審査委員会は全員一致で博士 (経営学) の学位に値するものと判断する。